眠れぬ夜に

キミイ

目次

おはよう

羽を休めて

一人じゃない

ベストフレンド

迷宮の君へ

生きている

そんな時

知っているのは自分

眠れぬ夜に

君がいると

スマイル　追加

特別な日　追加

理想と現実　追加

雨と涙　追加

夏と秋の間　追加

愛を～最終章～　追加

おはよう

君は今日も疲れた身体を引き摺り

満員電車に乗り込む

憂うつな表情で窓からの流れる景色を

何を思い見つめるのだろう

沢山のジレンマや

苦悩を抱え

それでも毎日歯を食いしばり

頑張る君に

おはよう！

笑顔で君に送ろう

今日も一日

頑張ろう！

私は君に元気をあげる

羽を休めて

しとしとと雨降る日

君は変わりなき日を迎える

閉ざされた日の光

くすんだ空を見上げ

しとしとと君の肩に染みる雨粒

それは少し冷たく

君の胸まで曇らせるだろう

進みたい道がある

したい事は山ほどある

だけど今を生きる日常もある

抱える荷物は思いの外重たくて

前になかなか進めない

そんなジレンマで

君はなかなか飛び立てない

雨降る日はそんなもどかしさを

余計に濃くするだろう

だけどそんな日は

君を愛する人を想い浮かべ

君はそれに甘えればいい

きっとあたたかなぬくもりで

君の心を癒してくれるだろう

羽ばたこうと忙しく動かしたその羽を

そっと閉じて

少し休めて

今日はしとしとと雨降る日だから

ベストフレンド

自分とは全く違うし

自分とは全く考え方も違う

だけどなんでか君に話すとホッとする

時々共感して

時々笑って

時々ムカついて

だけどやっぱりホッとする

頑張らなくて良い自分

強がらなくて良い自分

良い人じゃなくて良い自分

そんな姿を見せられる存在がいるっていいよね

君はベストフレンド

一人じゃない

あなたが求める愛は

いくら求めても埋まらない

あなたが自分を愛さなければ

あなたが自分を認めなければ

あなたの空虚は埋まらない

強い自分も

弱い自分も

美しい自分も

汚い自分も

全てあなただ

あるがままの自分を愛して

そうすればあなたの世界はきっと変わる

頑張り過ぎず

笑い過ぎず

肩の力を抜いて

正しい事が正しいとは限らない

悪い事が悪いとは限らない

あなたの心はいつでも自由だ

感じるがまま

時に身を委ねる事も

生きる為には必要だ

だからどんな自分も認めよう

きっとどこかにそんなあなたを

心から愛してくれる人がいる

あなたは一人じゃない

迷宮の君へ

気怠い身体と進みたい気持ち

カラカラ

空回り

頭ん中は新しい未来へ

ジャンプしてる僕

だけど

現実は沢山のしがらみに

グルグル

雁字搦め

思い切り断ち切って

飛び出せ自分

デカい声を張り上げ

腹ん中溜まった苛立ちを

吐き出せたら

どんなに気持ち良いだろう

僕は何がしたい？

何が望みだ？

まだ見つからない

見つからないんだ

だからイライラ

苛立ちをぶつける場所を捜すけど

それさえも見つからない

僕は暗黒の迷路に迷い込み

ドアは開けても開けても

暗がりだらけ

助けを求めても誰も助けてくれない

グルグル

迷宮入りだ

君の出口は必ずある

大丈夫

時は無情過ぎるけど

それは時に優しく君の道しるべになる

焦るな焦るな

ゆっくりでいいんだよ

きっと君の迷路に光が挿す時がくる

君はその光の挿す方へ

ゆっくり進めばいい

生きている

月日が経つのは早いもので

君がいなくなって

随分経った

君がいないこの世界は相変わらずだ

そして私も相変わらず

生きている

君のいた世界は

毎日がハラハラドキドキだった

君の未来を想像するだけで

ワクワクした

今

君のいない世界は

少し退屈だ

それでも

世界は生きている

そして私も生きている

そんな時

どうしようもなく寂しい時がある

どうしようもなく苦しい時がある

どうしようもなく悲しい時がある

そんな時

思い切り泣いてみたっていいじゃないか

思い切り声をあげて叫んでみたっていいじゃないか

きっとスッキリする

何も変わりはしないけれど

ほんの少しさっきとは違う自分が見える

そんな日もあるか

ほら

心が照れ笑いしてるはず

知っているのは自分

人は集まり集う

不思議だ

同じような顔した仲間が

語り笑い合う

人は群れると安心するのか

同じ意見を求め

同調すれば嬉しいのか

その笑みは本物か

私はイヤだ

群れるのは嫌いだ

一人が好き

風を感じ

木々の木漏れ日を受け

空を見上げる

想う事は

色々だが

一人静かに

自分を見つめる

肯も否定もしない

ありのままの自分を

しっかり受けとめる

自分の歩んできた道は

自分だけが知っている

人に話しても

書き記しても

何処かで小さな嘘がある

過去と記憶は

時と共に美化されるものだから

今更語るつもりはない

キレイな自分も

汚い自分も

私だけが知っている

嘘のない自分

それを知るのは

この私だけ

偉い人間でもない

平凡な人間だ

語る程の人間でもない

過去の過ちなんて

なんの罪も感じない

今更振り返っても何も変わらない

私は私

今この瞬間をただ生きるのみ

所詮私は単なる生き物

何を想おうが

誰も知らない

誰にも知ってほしくない

真実を述べる事は

生涯ない

眠れぬ夜に

眠れぬ夜に何を想ふ

眠れぬ夜に貴方は何を想ふ

眠れぬ夜に我が胸は何を想ふ

眠れぬ夜

独り静かな部屋で

グラスを傾け喉を潤す

何も不満はない

満たされているはず

モノに恵まれ

愛に包まれ

幸せな日々に感謝する

なのに時折

胸に刹那に襲う想いは何か？

いくつもの恋を知り

いくつもの別れを知り

揺るぎない愛を手に入れ

今想うのは

失われた純粋な心

若かったあの頃

何も恐れず

何も疑わず

貫こうとした想い

邪念なき心

別に悔いてるわけではない

数々の日々を経て今の私がいる

だけど

ふと立ち止まると

無性にあの頃の自分が懐かしく感じる

もう二度と戻れない青春の日々

毎日悩み苦しみそれでも生き抜こうと

貫こうと熱く燃えていた私の心

そして瞼を閉じると想い出す

18の君

膝を抱え泣く君を

自分と葛藤する君を

若かった私は

ただ、ただ一緒に泣いていた

何もしてやれず

身体で慰め

一緒に堕ちた

もしも

今、願うなら

１８の君に

もう一度会いたい

そして

大丈夫

大丈夫よと

優しく抱擁したい

今の私なら君を救えたのに

そんな事を想ふ

眠れぬ夜

君がいると

君がいると

なんだか

ほっこり

君がいると

なんだか

元気

君がいると

なんだか

笑っちゃう

君がいると

なんだか

やる気

君がいると

なんだか

ドキドキ

君がいると

なんだか

切ない

君がいると

なんだか

ホッとする

君がいると

なんだか

幸せ

私の回りの大切な君達

いつもありがとう

君達に支えられて私は生きている

みんな大好き！

愛を込めて

スマイル

どうしたの？

悲しく事あった？

辛い事あった？

理由は言いたくないなら

聞かないわ

だけどね

生きていれば

悲しい事、辛い事は避けれない

そこをどう乗り越えて

自分らしく生きていくか

多少汚れても黒くなっても

生き抜く力

それが試される正念場よ

さあ立ち上がって

前を向いて

スマイル

きっと悲しみや苦しみを乗り越えた分だけ

君は優しくなれる

人ってそんなふうに成長するのね

君のスマイルで

みんなもハッピーになるから

特別な日

今日はあなたがこの世に誕生した日

きっとなんにもない

普通に過ごしてる

もう大人だから

特別なお祝いはしないけど

でも

その歳は一生に一度

たった一年だけ

毎日同じようで

毎日違うから

あなたらしく

悔いのない日を送ってほしい

今が一番輝いてる

そう思えるよう

前を向いて

しっかり歩いて

特別なお祝いはしないけど

今日は特別

お誕生日おめでとう

理想と現実

少女マンガのような

素敵な人

小説のような

甘い言葉

ドラマのような

ドキドキするシチュエーション

映画のような

盛り上がる愛

恋する女の子なら

ちょっとは期待する

ちょっと酔ってしまう

だけど現実の恋は

全く違う

だからジレンマ

思い通りにならない

恋のお相手

あなたならどうする？

現実の恋を受け入れるか？

新しい恋を探すか？

あなたにピッタリな恋見つかるといいな

愛ってそんな感じって思える

素敵な人

いつか出会えるから

ほら、もしかしたら

あなたの一番近くにいるかも

雨と涙

雨音が激しく聞こえる

何故だか私は涙が出た

雨と一緒

何故だか涙はどんどん出る

嗚咽する程激しく泣いた

何の不満もないのに

何故か寂しくなる

大人になると

何故か人前では泣かなくなる

一人で泣いて

雨音で誰にも悟られないように

雨が上がった

私も泣き止んだ

さあ、笑おう

日射しは私のハートに

夏と秋の間

夏と秋の間のこの時期は

なんとなく寂しくなりませんか？

ギラギラと燃えるような

暑い日がある日

すうっと爽やかで涼しい風になり

頬を撫でる

そんな時なんだか

熱い想いを持っていかれたような

気持ちになる

なんだかポッカリと私の心が空っぽなような

寂しい気分

感じてしまうのは

私だけかしら？

愛を～最終章～

この世には

沢山の愛がある

親子

家族

友人

恋人

人を思い遣る心に

愛はある

それがどんな形にあてはまらなくても

出会いを大切に

大切な人に

全ての人に

愛が満ち溢れる

優しい気持ちでいたい

沢山の悲しみを乗り越えてきたからこそ

私には優しさがあるはずだから

あなたに私からの愛を

捧げます

ｅｎｄ

眠れぬ夜に

http://p.booklog.jp/book/86398

著者：キミイ
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/kimiynoheya/profile

表紙photo ClaraDon

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/86398

ブクログ本棚へ入れる
http://booklog.jp/item/3/86398

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社ブクログ